

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（S）
研究期間：2006～2010
課題番号：18102001
研究課題名（和文） アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズムの文学空間創出メカニズムの解明
研究課題名（英文） Studies on the History of the Arabian Nights and its Influence upon the Literary Genesis of Orientalism
研究代表者
西尾 哲夫（NISHIO TETSUO）
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号：90221473

研究分野：言語人類学・アラブ文学
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：(1)オリエンタリズム、(2)アラブ文学、(3)イスラム、(4)比較文学、(5)千一夜物語、(6)アラブ、(7)アラビアンナイト、(8)中東

1. 研究計画の概要

アラビアンナイトは、オリエンタリズムという時代的文化的枠組に規定されることによって、現代における一般的中東イメージ構築への地下水脈としての役割を果たしてきた。本研究では、これまで等閑視されてきた中世イスラーム社会研究の第一級資料としてのアラビアンナイトが持つ社会文化史的意義に着目し、世界に散在する種々の文献資料の発掘、整理、分析を通して中東世界における同物語集の原型、社会的受容、変遷を究明するとともに、中世イスラーム文化の基盤構造を再構築する。

具体的には、(1) 中世イスラーム世界におけるガラン訳アラビアンナイト出現以前(17世紀以前)のアラビアンナイト形成過程、(2) ガラン訳アラビアンナイト出現以降(18世紀以降)のアラビアンナイト受容による文明間イメージ形成と文学テキスト生成の相互作用を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

写本に関する海外調査と書誌情報データベース作成： 欧米の大学や図書館に所蔵される写本のリストを作成し、形態や内容について現地調査を行った。中東地域でもトルコとチュニジアで調査を行った。全写本をデジタル化し、写本データベースを作成した。本研究で新発見された写本もあり、重要な貢献となるであろう。

原典コーパスとアラブ民衆文化語彙電子辞書の作成： カルカッタ第2版の全文テキストデータベースを構築し、特にシンドバード物語をコーパスとして制作した「アラビアンナイト Web データベース試作版」では、検

索されたアラビア文字列に関して電子テキストデータおよびカルカッタ第2版印刷本の該当箇所 PDF データがウェブ上で閲覧・検索できるようになった。

物語モチーフ索引の作成： アラビアンナイト物語モチーフ索引「Esquisse d' un index des motifs dans les mille et une nuits」を改訂・増補した後、データベース化のための英語訳を終了した。

欧米・中東・日本での出版書誌情報データベース作成： 18世紀に出版されたアラビアンナイトの網羅的な書誌目録を作成した。

欧米・中東・日本でのアラビアンナイト受容に関する調査： ①アラビアンナイトの仏訳者として名高いマルドリュスが遺品として残した関連資料に対して、膨大な資料の目録作成とデジタル保存化の作業を開始した。②コモロ諸島を中心とするインド洋西部地域にてアラビアンナイト類話を採集、現在でもインド洋地域に分布していることが新たに確認できた。③北アフリカに伝播、より古い枠形式をもつ「百一夜物語」に関する調査を行い、写本資料を入手することができた。

国内および海外での国際研究集会： 「アラビアンナイト写本とテキスト形成の修辞学ワークショップ」と題した国際ワークショップを2回開催した。またオックスフォード大学ラウンドテーブルならびにカリフォルニア州立大学でのアメリカ比較文学学会年次大会に招待され講演した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

写本調査とデータベースの作成、日本・

欧米・中東での受容に関する調査、オリエンタリズムとの関係に関する分析など、本研究の中心的な研究項目は着実に達成されつつある。特に以下の点において当初の目的を超える研究の進展があり、予定以上の成果が見込まれる。

- (1) 現存する写本の網羅的調査とそのデータベース化は、19世紀末に主としてフランス国内所蔵写本を中心に行われて以来の画期的研究事業であるが、今回の調査では新発見が相次いでおり、原典テキスト形成過程に関する従来の定説を書きかえる可能性が非常に高い。
- (2) アラビアンナイトの起源に関してインド説話との関係が従来から議論されてきたが、インド洋地域における民話調査の結果、現在でも多くの類話が流布していることが判明した。この調査はアラビアンナイト研究はもちろんのこと、国際的な民話研究にも大きく寄与する。
- (3) 関係者の全面的な協力によって可能となったマルドリユス遺品の網羅的な調査は当初計画にはなかったものであり、未発表自筆原稿をはじめとする多くの初出資料が発見されており、アラビアンナイト研究はもちろんのことフランス文学研究全般にも大きく貢献する。
- (4) リニューアルした国立民族学博物館西アジア常設展示場での展示活動や、現在企画されているパリでの国際連携展示への展開は、予定以上の本研究成果の社会発信である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) アラビアンナイト形成過程分析のための基礎データ作成として以下の作業を引き続き継続しておこなう。

- ① アラビアンナイト写本に関する海外調査と書誌情報データベース作成。
- ② アラビアンナイト・アラビア語原典コーパスとアラブ民衆文化語彙電子辞書の作成。
- ③ アラビアンナイト物語モチーフ索引の作成。

(2) アラビアンナイト受容過程分析のための基礎データ作成として以下の作業を引き続き継続しておこなう。

- ① 欧米・中東・日本における出版書誌情報データベース作成。

② 挿絵画像データベース作成。

(3) アラビアンナイト受容の海外調査ならびに国内調査を引き続き継続しておこなう。

(4) 国際的な研究会を開催する。

(5) 写本調査に関する問題点として、中東諸国が所蔵する写本についての確認作業が困難であるばかりでなく、重要な写本が存在する可能性のあるイラクなどについては断片的な情報が得られるものの、実質的な調査は不可能である。現地での研究者等に可能な限り協力を要請し、共同で調査を行うことに

したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計79件)

- ① 杉田英明 単著 2009年「戦後日本の『アラビアン・ナイト』(続) —文学作品と戯曲・映画を中心に」『外国語研究紀要』第13号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp. 1~104、査読有。
- ② 杉田英明 単著 2008年「戦後日本の『アラビアン・ナイト』—翻訳と研究・批評を中心に」『外国語研究紀要』第12号、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部、pp. 1~60、査読有。
- ③ 西尾哲夫 単著 2006年「アラビアンナイトと中東世界の女性観—カイドの概念をめぐって」『比較文学研究』第87号(中東特輯)、東大比較文学会、pp. 3~16、査読有。

[学会発表] (計33件)

- ① 青柳悦子 2008年7月15日(招待講演) “God and Muslim’s world in the Arabian Nights: How Europeans encountered the Arabic world”, Oxford round table “Allusions to God in Prose and Poetry”, 15 July 2008, at St. Anne College, Oxford (England)
- ② 鷺見朗子 2008年4月27日(招待講演) “The Frame Story of the Hundred and One Nights: Departure or Arrival?”, American Comparative Literature Association 2008 Annual Meeting, California State University (Long Beach, CA).

[図書] (計8件)

- ① 青柳悦子 単著 2009年『デリダで読む『千夜一夜』』東京：新曜社、610頁。
- ② 西尾哲夫 単著 2007年『アラビアンナイト—文明のはざまに生まれた物語』(岩波新書) 東京：岩波書店、224頁。

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

新聞掲載情報

- ① 研究成果『アラビアンナイト』(岩波新書)が毎日新聞(平成19年5月20日)等の各誌書評で高く評価された。
- ② 流動する中東世界への視点として本研究の重要性を産経新聞(平成21年3月28日)に寄稿した。

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18102001.html>